身近な自然シリーズ

万葉植物園の役割

新元号「令和」は、万葉集の巻五の「梅花(うめのはな)の歌三十二首(巻五-八一五～八四六)」の序文にある「‥初春(しょしゅん)の令(れい)月(げつ)にして、気淑(よ)く風和(やはら)ぎ‥」からとられていると話題になりました。

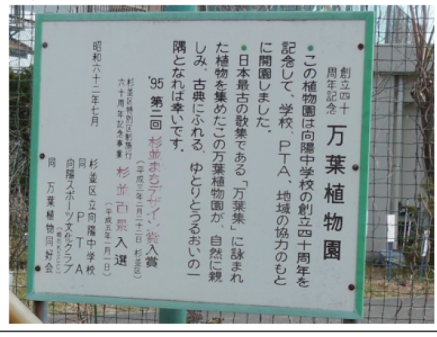
万葉集は、奈良時代末に大伴家持がまとめたといわれる日本最古の歌集で、天皇から名もなき人々までの歌が全二十巻、四五一六首収められています。大伴家持の父の大伴旅人が太宰府の長官だった時に、その邸宅で梅の花を愛でる宴を開き、座にいた当時の「筑紫(つくし)歌壇(かだん)」の人々が三十二首の歌を詠んだ時の序文で、歌を皆で楽しむ雰囲気が出ているそうです。向陽中の万葉植物園の歌碑にもそのうちの一首、山上憶良の歌(巻五-八一八)があります。

梅とメジロ

春されば　まづ咲く宿の梅の花 ひとり見つつや　春日暮らさむ(春になるとまず咲くこの家の梅の花を、ただ一人で見ながら、春の長い日を暮らすことであろうか。)

KSCC

杉並区立向陽中学校(昭和22年創立)の万葉植物園は、昭和62年に、向陽中学校創立40周年記念事業として、当時の高橋光安校長先生のもとで開園しました。趣意書板には、「この植物園は向陽中学校の創立四十周年を記念して、学校、PTA、地域(向陽スポーツ文化クラブ昭和51年創立)の協力のもとに開園しました。日本最古の歌集である「万葉集」に詠まれた植物を集めたこの万葉植物園が自然に親しみ、古典にふれる、ゆとりとうるおいの一隅となれば幸いです。」とあります。



KSCC

万葉集、約三分の一に当たる約千五百首の歌の中に約百六十余種の植物が詠み込まれていると言われています。食用、衣料、薬用、染料、住居、工芸用、観賞用等、万葉人の生活と密着したものであり、万葉人は自らの心の動きを、これらの植物の姿にたとえる事で、歌の表現を豊かにし、生き生きとさせました。

KSCC

万葉植物以外にも、平成9年向陽中学校の創立50周年記念樹として、＜平和の使徒＞と言われている「アンネのバラ」が植えられました。「アンネのバラ」はベルギー人の育種家デルフォルヘ氏によって作出されて1960年に品種登録され、スイス在住のアンネの父オットーフランク氏に贈られました。

昭和46年、聖イエス会聖歌隊がイスラエルで偶然オットー氏と出会って交流が始まり、1回目は昭和47年12月25日に日本へ10本の苗が送られてきましたが、輸送に時間がかかり9本は枯死し1本だけ翌年咲きました。その後、杉並区立高井戸中学校から育てたいとの要望を受け2回目は昭和51年春3月に10本のバラの苗を贈られ各地に広まっていった話は有名です。平成14年、スポーツ振興くじ(totoのサッカー籤益金)からの補助金交付による自前の新クラブハウスが新築落成後、工事のために中学校の正面玄関前に移植されたアンネのバラのかわりに「アンネのばら友の会埼玉支部」からご厚意の寄贈を受けて、再び平成15年12月4日に記念樹として植えられました。今もきれいな花を咲かせています。

万葉植物園は、杉並区の希少植物の保護の役割も果たしていると言えるでしょう。

ヒメウズ

ミツガシワ